

追悼の辞

本日ここに、埼玉県戦没者追悼式が、御遺族の皆様をはじめ各位御列席のもと厳肅に挙行されるにあたり、県内六十三市町村長を代表して、謹んで追悼の辞を申し上げます。

苛烈を極めた先の大戦が終結して八十年の歳月が流れました。

当時、戦地等において国の御楯として散華された軍人軍属のご英霊、空襲や原爆の惨禍を被りまた異国の地で非業の死を遂げざるを得なかった一般国民各位、合わせて三一〇万余名にのぼる我が国戦没者の御霊、その中におられる、四万八千余名の埼玉県戦没者の御霊に、改めて思いを馳せ、ここに衷心より哀悼の誠を捧げ御冥福をお祈りするものであります。

そして、最愛の肉親を失いし後、筆舌に尽くしがたいご労苦に耐え、黙々として戦後を生き抜いて来られたご遺族のご心中を察するに、痛恨の情切々として胸に迫るを禁じ得ません。

戦後、我が国は焦土の中から立ち上がり、多くの困難を乗り越え、国民のたゆまぬ努力により目覚ましい発展を遂げ、国際社会の中で平和と繁栄を享受して参りました。

この平和と繁栄は、過ぐる大戦において一命を捧げられたご英霊

の、国と家族の繁栄を願う切なる思いと、戦火にてその命を奪われた一般国民各位の無念の思いが、それぞれ祖国復興と恒久平和実現に向けた原動力として、生き残った方々に受け継がれた結果であります。

戦後八十年、いま我が国を取り巻く情勢は混迷を深め、世界は緊迫した状況にあります。このような中であって、先人の雄々しき勲と深い悲しみを、新たな世代に語り継ぎつつ、我が国の更なる発展と世界の恒久平和の実現のため、今の我々に何が出来るか、国民一人ひとりが考え実践することが、御霊を鎮め、新たな日本の未来を開く道であると、私自身確信しているところであります。戦没者の御霊におかれましては、我々のこの覚悟のほどをご照覧いただき、どうぞ安らかにこれからの日本を引き続きお導き下さい。

結びに、あらためて戦没者各位の御霊の御冥福と、御遺族皆様方の御健勝と御多幸を心からお祈りして、追悼の辞とさせていただきます。

令和七年十月十一日

埼玉県市長会長 本庄市長 吉田 信解